

公益社団法人私立大学情報教育協会
平成23年度第2回情報教育研究委員会分野別情報教育分科会 議事記録

- I. 日 時：平成23年10月27日(木)午後5時～午後7時
II. 場 所：私学会館アルカディア市ヶ谷
III. 参加者：真下主査、渡邊隆俊副主査、渡辺淳副主査 (Net)、武藤委員、井上委員、
阿部栄子委員、渡辺美智子委員、角田委員、阿部仁委員、
及川先生(Net)、藤井トバイ
事務局：井端事務局長、森下主幹、野本職員

IV. 検討事項

1. アンケート調査委についての検討

- ・ スケジュールとして、11月にアンケートをとり12月に検討して3月までにまとめる予定にしたい。
- ・ 分科会では英語の到達度を例にアンケート案を例に重点部分を探ってみたく、先生の授業を進める上でおりこんで実施していることを調査したい。
- ・ 先生によって授業科目がなく、分野学科担当により全ての対応はないと思われる。
- ・ 調査は、分野別の到達度の記述で良いとの意見があった。先生により意見分かれるがもらえると考える、一部の先生でも実施していれば良いのではないかと、学部学科で集計してみてもどうか、主任や学部長に依頼してはどうか、大学評価センターに出してはどうかなどの案がでた。
- ・ 実態を把握することを考え、本質的学びを進めるための道具として先生の意識があるか調査したい。
- ・ 大学の組織的に調査するならば、2段階に実施すべきではないか。将来的には組織に調査を考えたい。
- ・ 答え方が難しいので、先生に対してなのか学科に対してなのか説明が必要。
- ・ 科目名を記述してもらってはどうか。
- ・ ICTの言葉では、理解が分かれる可能性があるため、教育内容や方法の言葉を利用した説明が良いのではないかと。属性を聞く必要があるのではないかと、先生か学科など。個人として調査が良いとの意見があった。
- ・ 案内文章にはリテラシー教育とはちがうことの説明が必要ではないかと、分野固有で必要な情報教育として、社会から要求されている説明が必要ではないかと。
- ・ リテラシーのキーワードと分野固有のものとのオーバーラップしないかの意見で、リテラシー教育ではアンケートを別に実施をした。また、最初はリテラシーのキーワードをアンケートとして設定したが、分野に含まれるので、項目を分野の到達度に変更をした。リテラシーを含めると関連させることが困難と考えた。視点を入れた教育として初年次やキャリアでは授業が完結しないのではないかと。
- ・ 達成度を聞く場合には、レベルに関係なくやっているかやっていないかで判断してはどうか。
- ・ 到達度以外のものは記述をしてもらう。具体的な授業の内容などをかいてもらう。

2. 今後の予定

- ・ Netで標準案を提示し、検討を行い、サイバーFD研究員の先生へアンケートを実施する予定とした。
- ・ 後日、主査・副主査に標準案を分野例として提示、検討をして事務局でまとめてアンケートを実施した。分野別に2月6日からアンケート調査をメールで依頼開始し、2月末で締切、3月に集計を開始した。